

お父さんのお仕事

御津北部小・3 渥美 花椰

わたしのお父さんは、おいしいごはんを作るお仕事をしています。わたしが二年生のときに自分のお店を作りました。お店の名前は、家がかつている大すきな犬の名前にしました。

お父さんのお仕事は、おいしいごはんを作ってお客さんを幸せにすることです。ほかに、お皿あらいや予やくの電話をとったり、お客さんに注文を聞いたりしています。お客さんがたくさん来てくれるから、いつもくたくたで帰ってきます。だけど、自分のお店を開いて、とても楽しいと言っていました。お父さんは、みんなが休みの日はたらいにいるから、なかなか会えなくてさみしいです。だけど水曜日は、お仕事が休みだから、うれしいです。お父さんの作る理はすごくおいしいです。パスタ、ぜんさい、デザート全部手作りです。アイスも作っています。パンケーキはふわふわとろとろで、バターがジュワツととけてすごくおいしいです。

お父さんにいくつかインタビューをしました。

「いちばんたいへんなことはなんですか。」

とたずねると、新しいメニューを考えることだとお父さんは答えました。きせつの野さいを使ったり、いろいろを考えたり、お客さんのつくえに運ばれたときに、目で見て幸せになれて、食べたらもっと幸せになれるりよう理を考えることがたいへんだそうです。

「ごはんをどんな気持ちで作っていますか。」

とたずねると、おいしくなあれ、みんなが幸せになあれという気持ちで作っていると、お父さんは答えました。どんな食さいでも少し手をくわえ、くふうをし、何倍も何倍もおいしくなるように、りよう理を作っているそうです。

「いちばんうれしいことは何ですか。」

とたずねると、おいしいとよろこんでくれたときだとお父さんは答えました。りよう理を食べたときに自ぜんとえがおになったり、何回もお店に食べに来てくれたりすると、お客さんにりよう理を作ったよかったという気持ちになるそうです。

「自分のお店を作ったことは何ですか。」

とたずねると、自分のやりたいことができたことだとお父さんは答えました。お父さんは、子どものころからのゆめを三十九さいでかなえました。小さいころからお母さんのお手つだいをしていました。お母さんのおいしいりよう理が大すきだったと言っていました。そして、自分でりよう理を作っていたそうです。六さいのとき、一人でホットケーキを作り、大やけどをしたこともあったそうですが、小さいころからお母さんにたくさんりよう理をさせてもらえて、りよう理を作ることが大すきになったと言っていました。

わたしのしょう来のゆめは、まだ決まっています。ただきょうみはたくさんあります。

一つ目は、お父さんみたいにおいしいごはんを作るお仕事をしたいです。理由は、お父さんに負けないぐらいおいしいごはんを作って、お客さんを幸せにしたいからです。

二つ目は、ケーキ屋さんです。理由は、来た人がおいしいと思つて何度も何度も来たくなるようなすごくおいしいケーキを作りたい

からです。

三つ目は、かんごしです。理由はお母さんがやっていて、わたしも、たくさん命をすくってりっぱなかんごしさんになろうと思っただからです。

わたしもしょう来、自分がやりたい大すきなお仕事をえらびたいです。